

株式会社盛田工業所

ボイラー耐火整備工事のパイオニアが 建設業に特化した支援システムで 見積り・発注・請求業務の効率化を実現

SMILE BS 2nd Edition

導入の狙い

- ・工事件件の見積り・発注・請求業務の効率化
- ・過去データの有効活用

導入システム

- ・建設業向け見積管理システム『SMILE BS 2nd Edition POWER見積』

導入効果

- ・見積り作成・発注・請求業務を一気通貫で実施
- ・過去データ参照による新規作成が可能
- ・仕入会社や協力会社へ円滑な発注業務を実現

USER PROFILE

株式会社盛田工業所

【業種】環境設備の建設・メンテナンス業

【事業内容】ごみ焼却施設関連工事、産業プラント施設関連工事、WJ関連工事

【従業員数】33名(2018年9月現在)



2018年9月取材



全国各地の環境プラント建設とメンテナンス工事を手がけ、ボイラー整備の確固たる信頼を築いている

株式会社盛田工業所は、ボイラーのメンテナンスと整備工事に長年従事してきたパイオニア企業だ。同社は事務処理の効率化を図るために、1999年に建設業向け見積管理システム『POWER見積』をいち早く導入し、以来、バージョンアップを重ねながら継続的に活用している。見積り作成をはじめ、仕入先や協力会社への発注・工事完成後の得意先への請求業務の効率化など、その活用方法を伺った。

卓越した技術とノウハウで ボイラー整備の確固たる信頼を築く

大阪市大正区に本社を構える株式会社盛田工業所は、日立造船株式会社の築港工場内で、タービン船のボイラー整備を行う工事会社として1947年に設立された。その後、全国の自治体で相次いでごみ焼却施設が建設されるようになり、同社も新たな事業の柱としてごみ焼却施設のボイラーのメンテナンスや整備工事に従事するようになった。以来、日立造船をはじめとする大手プラント企業の案件を継続的に受注し、業界内で高い評価を得ている。

同社の強みは、高品質な独自技術の蓄積とワンストップ対応だ。タービン船のボイラー整備で培った独自のノウハウを蓄積しており、ボイラーの水管に傷を与えずに、古い耐火物やダストを除去するウォータージェット(高圧水)工法をいち早く実用化したのもその一例といえる。

「ボイラーの耐火物に特化したウォータージェットセルフコントロールシステム工法は当社だけの技術です。業界内では対応できる企業がほかにないため、ほぼ当社に依頼が来ている状況です」

また、ボイラーに関する整備工事だけでなくトータルでメンテナンス対応できることも大きい。

「お客様は当社に一括発注することで、複数社に作業を分担して管理する手間を軽減できるメリットがあります」と営業部 部長の中山 工氏は語る。

特に専門的な技術力が求められる自治体のごみ焼却施設の整備工事やメンテナンスには、要求仕様や検査項目が非常に多いため、ほかの業界から新規参入することは難しく、競合会社の少ない安定した事業となっている。

一方で、近年は少子高齢化の影響で同社にとっても人手不足の問題は深刻だ。その解決策の一環として、自社の新卒



見積り作成から発注・請求業務まで一貫して行える業務基盤を確立している

採用を増やすとともに、東南アジアの実習生を積極的に受け入れを実施している。また協力会社の人材育成支援として、ボイラーに関連する資格取得の費用を無償で供与する取り組みも行っている。

技術の伝承はもとより、「地球環境」という大きな課題に対しても貢献するエンジニアリング企業として、さまざまな取り組みを通じて100年企業を目指している。

建設業に特化したシステムで 業務の効率化を継続的に推進

同社は見積書や発注書、請求書などの発行業務に、OSKの建設業向け見積管理システム『SMILE BS 2nd Edition POWER見積(以下、SMILE BS2 POWER見積)』を利用している。その経緯は古く、1990年代にまでさかのぼる。

当時は見積書の作成にワープロを使用し、データはフロッピーディスクに保存して得意先ごとのケースに入れて年度別に管理していた。し

かしワープロは、単に見積書を作成するためのツールに過ぎず、材料仕入先への発注書や得意先への請求書は、別途作成する必要があった。

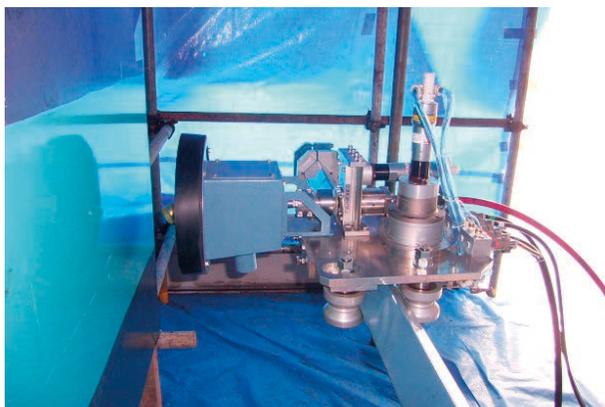
そこで、見積書の作成だけではなく、発注業務や請求業務までトータルでの効率化を目的に、1999年にPCベースのシステム導入を検討し始めた。検討を重ねた結果、導入したのが、『POWER見積』(当時は見積Pro)だった。

以来、バージョンアップを重ねながら継続的に運用し、2018年3月に『SMILE

営業部 部長
中山 工氏

「『POWER見積』を活用することで、見積書の作成から発注書や請求書の発行まで一貫して行えます。過去のデータも簡単に参照でき、業務がスムーズです。今後も継続的に活用していきたいです」





超高压ポンプから供給される超高压水を、専用の特殊ノズルヘッドに組み込んだウォータノズルから噴射させ、その衝撃エネルギーで耐火物をはつることができる。専用特殊ノズルヘッドを移動装置に組み込み、超高压水を回転噴射しながら左右へ移動することによって連続的に「ハツリ」作業が行える

BS2 POWER見積』に移行している。

同社の業務の流れと『SMILE BS2 POWER見積』を利用する利点を、中山氏は次のように説明する。

「お客様から工事依頼が来ると、まず営業担当が見積書を作成します。受注が確定した段階で、仕入先ごとに発注書を作成して材料を手配しますが、見積書の工事項目の内訳明細から材料の必要数を集計出力します。その後、材料の発注先別に発注書を発行します。また協力会社へ依頼する下請け工事の発注書も簡単に作成できます」

なお同社では、材料の内訳明細の備考欄に納入日を入力している。こうしておくことで、工事スタッフが現場で材料一覧表を手にしながらか、どの材料がいつ納入されるのかひと目でチェックできるのでとても便利だという。

工事が完成した案件は、事務員が見積書データをもとに請求書を発行し、営業担当者がチェックして顧客に提出する、という業務の流れになっている。

「見積書と発注書・請求書は、案件ごとに共通の通し番号で管理されているので、帳票を見ればどの工事案件かがすぐに分かります」

同システムを継続的に利用している理由について、中山氏は語る。

「なんといっても、見積書の作成から発

注書や請求書の発行まで一貫して行えるのが便利です。使い始めてから約18年経ちますが、不便さを感じたことは一度もありませんし、バージョンアップしても過去データをそのまま引き継げるので、情報資産の有効活用ができています。また、何か困ったことがあると、すぐにOSKの担当者が駆けつけてサポートしてくれるので安心感があります」

オリジナル帳票作成機能で 自社仕様の帳票を作成

各帳票の出力項目の名称や並び順、計算式などを自由に指定した、オリジナルレイアウトの帳票を自分たちで作成できるので大変便利だという。

「初期バージョンを導入したときは、業務内容に合わせた帳票をカスタマイズで作成してもらいました。しかし、2回目のバージョンアップのときに自分たちで作成してみたら、思ったよりも簡単だったので、以来、必要な帳票は自分たちで作成しています」

現在は約20種類の帳票を日々の業務で活用している。その中には、建設業界の法制度に対応した2種類の請求書も含まれている。

「建設業法では、元請け会社は下請け会社の労務費を現金で支払うことが定められています。その一方で、それ以外の材料費などは手形で支払うことができるの

で、それぞれの支払い方法に応じた2種類の請求書が必要になるのです」

さらに2017年度からは、見積書に建設工事に携わる人の法定福利費を明示することも義務付けられようになったが、『SMILE BS2 POWER見積』は、標準対応している。具体的には、見積りの内訳に法定福利費を入力することで、見積書に明示できるのだ。

「長年このシステムを利用していますが、建設業に最適化されていて、法制度の変更に合わせて個別の対処が不要なことも大きな利点です」

過去のデータを参照して 新たな見積書を即座に作成

同社が『SMILE BS2 POWER見積』を活用してきた中で、過去データを参照した新たな見積書作成は、一番効果を実感している機能といえる。

「当社では、ごみ焼却施設のボイラー設備の安全性を保つために毎年定期的にメンテナンスを行うリピート工事が大半を占めます。例えていうと、自動車の車検のように検査項目やメンテナンス作業は既に決まっていて、ボイラーの耐火物を修理する範囲が広い狭いだけで毎回異なるのです。そのため、前年度の見積りデータを流用して新たに発生する耐火物の修理代を加えれば、メンテナンス用の見積書はすぐに作成できます」

新規の工事案件についても、ボイラーの整備工事は似たような作業が多いため、過去の見積りをベースにして、材料費の金額を置き換えて再積算すれば、比較的簡単に作成できる。

「見積書は平均で3ページ、多いものでは15ページになるものもあります。すべて一から作成するとすると、膨大な時間と労力を要しますが、過去の実績データを流用することで、そうした手間が一気に省けるようになりました」

同社は、過去の工事実績を施設別と年度別に分類して管理している。施設メンテナンスの見積りを依頼された場合も、当該施設のフォルダーから前年度のデータを取り出して参照できる。さらに過去の工事詳細を調べたいときは検索機能を活用している。施工年度や請負額といった複合条件での検索も可能なことから、手間はほとんどかからないという。

仕入会社や協力会社への発注書や、得意先への請求書発行がスムーズに行えるようになった効果も非常に大きい。

現在、見積書と発注書の作成は営業部の3名で対応し、請求書作成は事務員1人ですべて行っている。少人数で煩雑な事務処理を効率的に行えることは同社の大きな強みとなっている。

今後は、紙の図面や工事資料を複合機のスキャン機能で電子化し、工事案件情報と紐付ける予定だ。『SMILE BS2 POWER見積』には、工事情報を登録する工事概要で関連資料との紐付けができる機能を実装している。紙の図面や工事資料をPDF化し、所定のフォルダーに保存するだけで、そうした環境を手間なく簡単に整備できるのだ。これによって、見積書作成の際には画面上で図面をすぐ参照でき、作成作業はよりスピーディーに行えるようになる。

「紙の図面や工事資料は今でもきちん



約18年にわたり『POWER見積』を利用してきた同社は、煩雑な事務処理を少人数で効率的に行っている

とファイリングして保管しています。しかし、今後はすべての情報を『SMILE BS2 POWER見積』で一元管理し、有効活用できるようにしていくつもりです」と中山氏は話を締めくくった。



株式会社盛田工業所のホームページ

<http://www.morita-ids.co.jp/>

お問い合わせ